

秋風が心地よく吹き抜け、今年も実りと彩りを感じる季節が巡ってきました。今回は「宇土市をめぐる秋」をテーマに、身近にある宇土の秋の魅力を改めてご紹介したいと思います。

まずは「実りの秋」と「食欲の秋」。毎週日曜朝、市役所玄関前で開かれる「日曜朝市」には、地元農家さんなどが丹精込めて育てた新鮮な野菜や果物、手作りのお惣菜などがずらりと並びます。旬の味覚を楽しむだけでなく、出店者さんとの会話やふれあいも朝市ならではの魅力です。空気が澄みわたる秋の朝、活気あふれる朝市の雰囲気を感じに、ぜひお立ち寄りください。

「行楽の秋」には、宇土半島沿いのドライブもおおすすめです。海沿いの道走ると、長部田海床路の幻想的な景色が広がります。干潮時に現れ、満潮時に海へ消える道——この不思議な光景は、宇土市自慢の絶景です。住吉海岸公園のシンベエ像、ちよつと足を伸ばして網田レトロ館や道の駅宇土マリーナで特産品やお土産探し、食事を楽しむのも一興です。その道すがら、有明海の沖に色とりどりの海苔網が広がる「海苔の種付け」もこの季節ならではの風景です。静かな海に浮かぶ網が秋のやわらかな日差しに照らされる景色は、地元の方にもぜひ見ていただきたい宇土の風物詩です。

そして「文化の秋」。宇土市が誇る「大太鼓収蔵館」では、国指定重要有形民俗文化財の宇土の雨乞い大太鼓の展示だけでなく、実際に大太鼓を叩く体験ができます。大きな太鼓が響かせる迫力ある音は、きっと忘れられない思い出になるはず。中学生以下

げんき 元樹だより

市長からのメッセージ

元松 茂樹



市長の部屋

こちらからも
ご覧いただけます



と65歳以上は入館無料です。ご家族やご友人と一緒に、宇土の文化に触れ、秋の思い出をつくってみてはいかがでしょうか？

身近な場所や出来事も、見方を変えれば新しい発見があるかもしれません。こうした秋の風景や体験が、普段は気づかなかつた宇土市の魅力を再発見するきっかけとなり、ふるさとへの誇りや愛着を深める季節となりますよう、心より願っています。

※日曜朝市について

・毎週日曜（10月・2月はお休み）午前6時から午前7時まで開催しています。

・商品が売り切れ次第、終了となります。

・お客様の集まり具合によっては、早めに販売が開始される場合があります。

・販売される商品や開催状況は、天候等によって変わることがありますので、ご了承ください。

香典返し

市社協に次の方々から寄附がありました。厚く御礼申し上げますとともに故人のご冥福をお祈りいたします。（敬称略）

▽戸口町	上田幸代	亡夫 久生	（六六）
▽岩古曾町	鈴木義勝	亡妻 洋子	（八〇）
▽松山町	谷内千代美	亡母 山本チカイ	（九一）
▽松山町	坂田美津子	亡夫 豊	（六九）
▽走潟町	小山 巖	亡妻 ミヨ子	（九二）
▽松原町	吉本 訓	亡母 美恵子	（八八）
▽古保里町	野口英治	亡母 和子	（八九）
▽善道寺町	赤澤三枝子	亡夫 幸也	（八二）
▽戸口町	竹山藤子	亡夫 直之	（八九）
▽上綱田町	豊田千恵	亡夫 榮	（八五）
▽松山町	竹馬芳子	亡夫 浩喜	（九一）
▽長浜町	山本新一	亡母 婦左	（九四）
▽走潟町	下田正浩	亡母 昭子	（八八）
▽網津町	清田雅昭	亡母 春子	（九二）
▽熊本市東区画図町	松田隆至	亡父 明治	（九七）

（※10月10日受付分までを掲載）

社協へのご寄附は、確定申告などで、所得税法と地方税法の「寄附金控除」ができます。

編集後記

▽10月は行事ラッシュ！地区の体育理事として選手集めに奔走するも、若手がいらない…。気づけば自分が競技に出場。さらに獅子舞では40キロの獅子を担ぎ、汗と涙の秋。毎年「来年こそ鍛えよう」と誓うけれど、その誓いも冬眠しがち。さて、来年の私はどうなることやら。（東）

▽暑さの残る日もありますが、だいぶ秋らしい気候になりました。秋といえばスポーツ。県内外で活躍されている選手の皆さまを取材する中で、宇土はスポーツが盛んな土地だなあと改めて実感しました。（古）

▽11月29日は「いい肉の日」。お肉好きの私にとっては、カレンダーを見ただけでテンションが上がる日です。さらに、新米が出回る時期。炊き立てのご飯にジュージュー焼いたお肉をのせて…想像するだけで幸せな気持ちになります。（松）

